

菅茶山顕彰会会報

第 19 号
発 行

菅茶山顕彰会
2009年3月1日



祭文奉読 (高橋実行委員長)

祭 文

—— 菊薫るかぎり茶山の文化あり ——
十年前の「菅茶山先生 生誕二百五十年祭」のとき、俳人竹下陶子先生が献句されました。

はるか二百六十年前、茶山先生がお生まれになった時と同じく、我が郷土神辺は菊が香り、黄金の波が広がり、平和で豊かな町として生々発展を続けております。

本日、地元自治会のご奉仕によって、廉塾前広場、すなわち先生ご在世中、廉塾の塾生達が耕した畑を広場に整備されて、今回初めて、黄葉夕陽村舎・廉塾において、先生の生誕祭を営むことができました。菅茶山先生顕彰の活動を省みれば、現在まで、数々の行事が企画実行されておりますのでご報告申し上げます。

古くは大正十五年、北辰会によって先生歿後百年祭が執り行われました。以後昭和五十一年に百五十年祭、続いて百六十年祭を機に菅茶山遺芳顕彰会が組織され、百六十五年祭を迎えました。

そして、先生歿後七十年祭に代えて平成十年には生誕二百五十年と銘打って、神辺文化会館において盛大な式典が挙行されました。以来今日まで菅茶山顕彰会は、「茶山詩話」の発刊、「茶山ポエム絵画展」の毎年開催、「町並み格子戸展」の開催、「茶山詩碑」の建立、「茶山遺墨集」の発刊、そしてインターネットで「菅茶山遺芳顕彰会ホームページ」の立ち上げ等等、神辺町文化の大きなうねりをおこしてきました。

これらは顕彰会理事全員の献身的な奉仕活動により実現されたことは申すまでもありませんが、茶山文化を支えて下さる義倉財団、神辺ライオンズクラブ、神辺町観光協会、深安郡医師会ならびに歯科医師会有志、渋谷育英会、その他有志の方々のご厚志によるところが大きいです。

菅茶山先生は京都で学ばれた後、郷里神辺に帰り、学問の種を蒔くとして、この黄葉夕陽村舎廉塾を興し、子弟の教育に生涯を尽くされました。その教育的識見は今日の教育にも十分適合するものであります。先年来、講演を願った小説家藤井登美子先生や広島大学の西原千代先生によつて、茶山先生が蝶や花などの自然現象だけでなく、政治にも深く関心を抱いておられたことが解りました。

これまでの顕彰会の歩みは今回の記念祭を機に冊子として残すことになっております。以上、本日の式典に当たり、参加者一同ならびに菅茶山顕彰の有志を代表し、蕪辞を述べて祭文と致します。

平成二十年十一月三日

菅茶山生誕二六〇年祭 実行委員会 委員長 高橋孝一